

# 株式会社イノアックコーポレーション

## 1. 会社概要

[社名] 株式会社イノアックコーポレーション

[設立] 1954年

[資本金] 7億2,000万円

[従業員] 2,098名 (H19年12月)

[売上高] 3,670億円(連結) (H19年12月)

[本社所在地] 愛知県名古屋市中村区  
名駅南二丁目13番4号

[業種] 製造業

[事業内容] ウレタン、ゴム、プラスチック、  
複合材をベースとした材料開発  
とその製品化により、自動車、  
二輪、情報・IT機器、住宅・建  
設関連から身近な生活関連商品、  
コスメ用品まで、生活の様々な  
場面に密着した製品を取り扱う

## 2. 環境への取り組み

当社は「環境と調和するテクノロジーと環境を大切にせる企業活動を通して、かけがえない地球の自然環境を尊重し、豊かな暮らしやすい社会の実現に貢献します。」を環境理念として掲げ、環境保全に関する様々な取り組みを行っております。

その中で、化学物質の管理に関しては環境方針の中で「環境負荷低減型の製品を開発し販売することで、環境に優しい市場を創造します。」と掲げ、ISO14001のマネジメントシステムの仕組みの中で、環境負荷物質毎に削減目標を策定し、その活動をして参りました。

その結果、ジクロロメタンは43%と3年前の半分に以下に使用量を削減する事ができました。

環境負荷物質	08年度目標	08年度実績
ジクロロメタン	30%減(2005年比)	
キシレン	10%減(2005年比)	
トルエン	10%減(2005年比)	x
DBP	10%減(2005年比)	
DOA	10%減(2005年比)	
DOP	10%減(2005年比)	

## 3. 取り組み事例

[事業所] 八名事業所

(産業資材カンパニー 発泡品事業本部)

[対象化学物質] 145 ジクロロメタン

### [取り組みの概要]

ウレタンフォーム(発泡体)の製造工程において、従来補助発泡剤として、有機溶剤やフロン、代替フロンが使用されており、これら補助発泡剤が地球温暖化に悪影響を及ぼす可能性が指摘されておりました。弊社 YES 発泡プロセスは、これら従来の補助発泡剤の替わりとして炭酸ガスを補助発泡剤として用いる日本国内初の炭酸ガス発泡施設で、環境に優しい生産活動を行っております。

また、炭酸ガスは化学プラントから排出されるものを液化して再利用しており、新たな炭酸ガスを発生させるものではなく、地球温暖化にやさしいものです。



発泡剤名	ODP (オゾン破壊係数)	GWP (地球温暖化係数)	使用可否	備考
液体CO2	0	1 再使用のため実質ゼロ	○	環境に負荷をかけない 最も環境に優しい
水(CO2発生)	0	1	△	低密度やソフトタイプが難しい
ジクロロメタン	0.007	9	△	PRTR対象
シクロペンタン	0	11	△	引火性強い
HFC-245fa	0	560	△	温暖化係数高い
CFC-11	1	4000	×	使用禁止物質、PRTR対象

(参考) 補助発泡剤比較

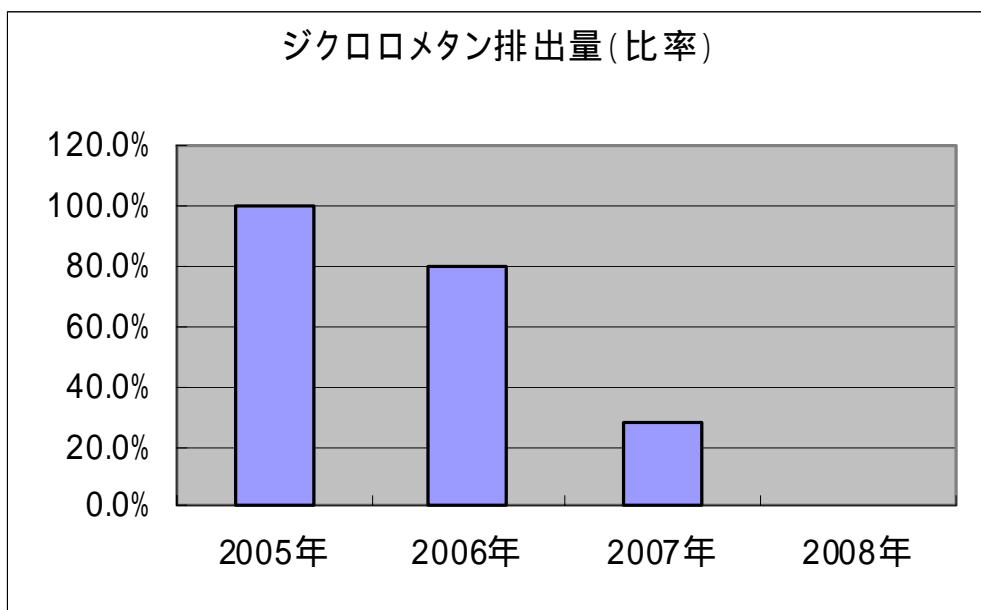
### [排出量の算出方法]

連続気泡のウレタンフォームでは、補助発泡剤として使用するガスが、ほぼ全量大気中へ気散します。そのため、弊社では補助発泡剤の排出量 = 使用量として考えております。

### [排出量の経年変化]

(05年を100%とした比率)

	2005年	2006年	2007年	2008年
ジクロロメタン 排出量(比率)	100.0%	80.3%	27.7%	0.0%



### [取組内容の効果]

#### メリット

- ・温暖化に寄与する補助発泡剤、有害性の有る補助発泡剤を使用しなくても良い。

#### デメリット

- ・炭酸ガス導入設備が高圧設備のため、安全には留意する必要がある。
- ・設備導入コストがかかる。

### 4. 今後の展望

- ・八名事業所では既にジクロロメタンの使用を全廃しているが、他事業所では未だ補助発泡剤として使用している工場もあるため、将来的に全事業所での全廃を目指す。
- ・今後は他の対象化学物質についても代替検討を進めていく。

(参考) 発泡品事業本部の対象化学物質使用量 (2005年を100%とした比率)

	2005年	2006年	2007年	2008年
ジクロロメタン	100.0%	83.3%	34.0%	12.0%
代替フロン	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DBP	100.0%	13.8%	11.7%	11.4%
DOA	100.0%	68.1%	56.5%	39.5%

